

第2章 西東京市農業の現状と課題

1. 西東京市の概要

本市は、東京都の西北部、都心より約20kmに位置し、平成13年(2001年)1月に田無市と保谷市が合併して西東京市となりました。市域は1,585ha、人口密度は114.1人/haであり、市街化が進行した住宅都市です。

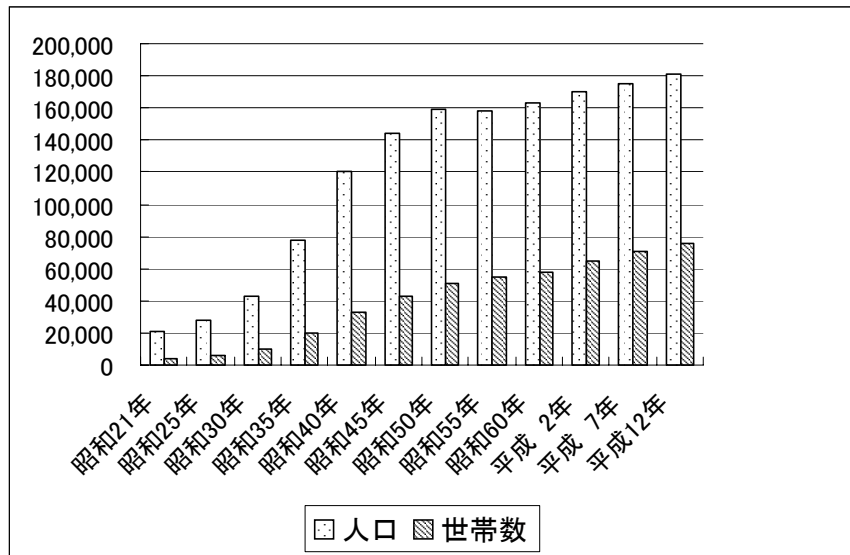
(1) 人口

平成15年1月1日現在、人口は182,730人、80,665世帯、世帯当たり人口は2.27人であり、65歳以上の人口が17%を占め、すでに高齢社会に入っているといます。

人口推移をみると、昭和30年以降急増し、昭和30年42,777人が昭和40年には120,416人と約3倍になっています。昭和40年以降も増加は続きますが、昭和50年代は16万人弱で横這いとなり、昭和60年以降は微増の状況が続いています。

人口世帯数の推移

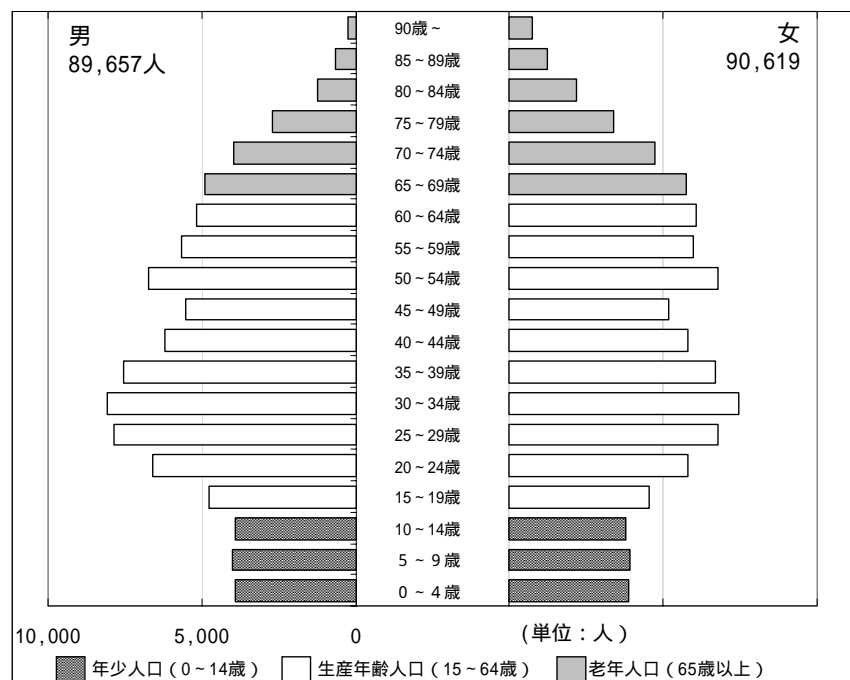
(資料：国勢調査)



年齢別人口構成

(出典：統計にしようきょう)

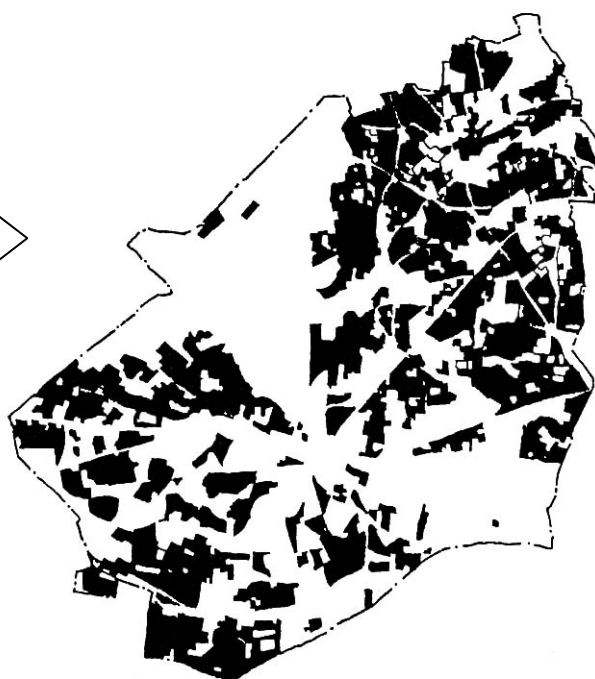
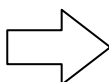
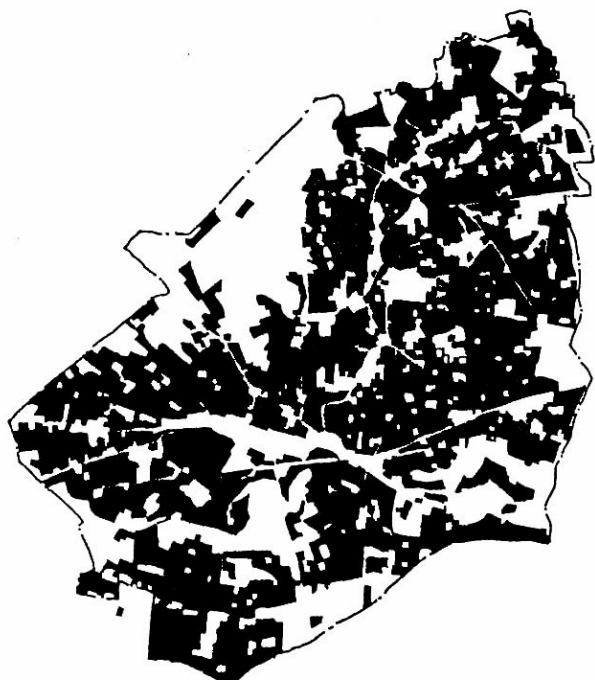
平成14年版)



農地の変遷 (1/25000 地形図より作成)

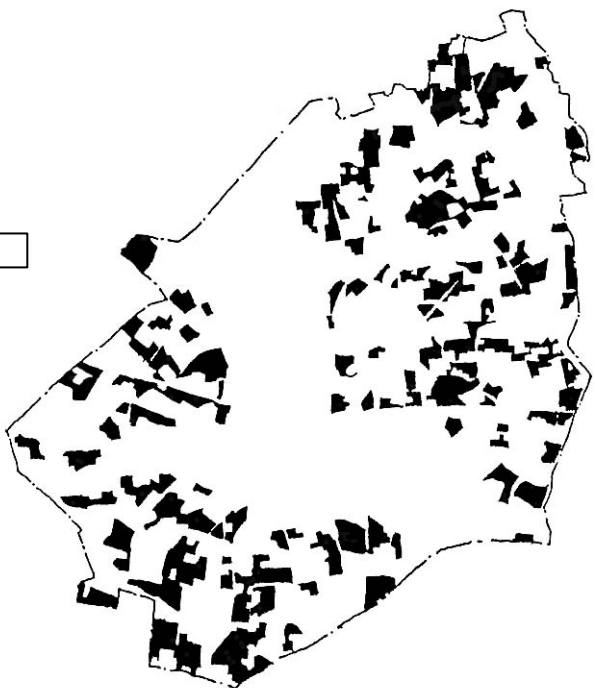
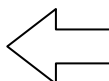
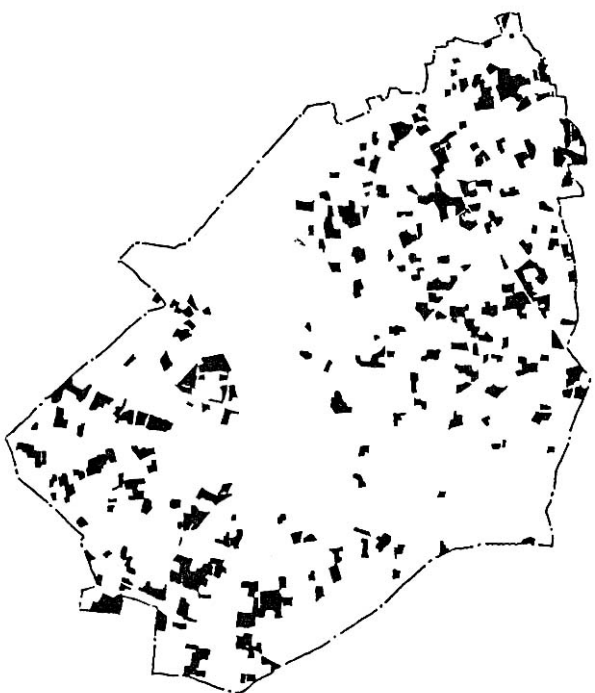
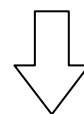
【昭和2年】

【昭和20年】



【平成10年】

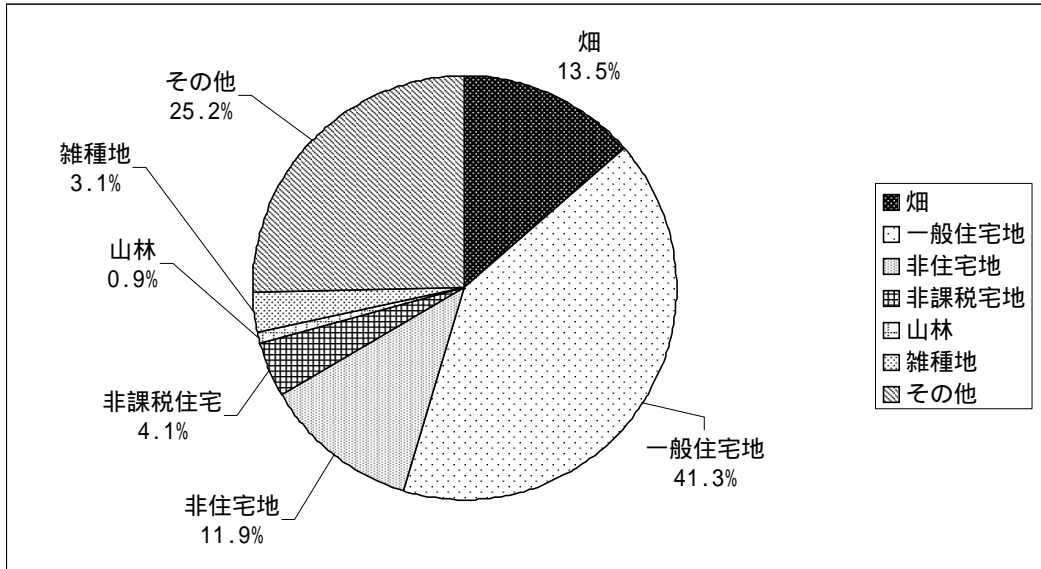
【昭和43年】



(2) 土地利用

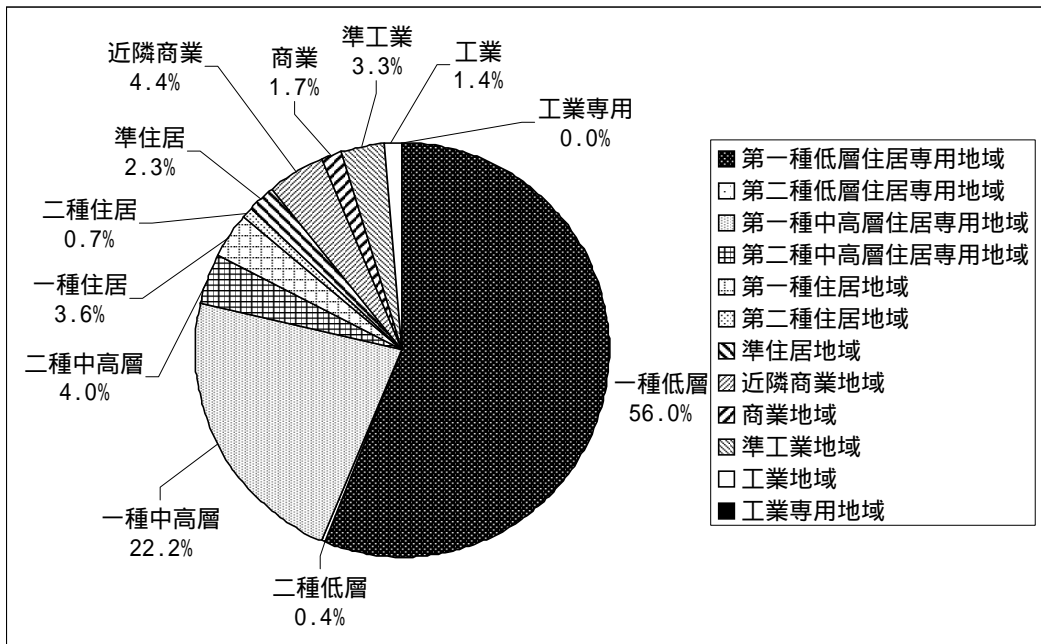
地目別には宅地が57.3%を占め、中でも一般住宅地が41.3%とその大半を占めます。用途地域も第一種の低層、中低層住居専用地域が80%近くを占め、住宅都市の性格が強く現れています。

地目別土地面積（平成14年1月1日）



(資料：税務部資産税課)

用途地域面積（平成14年4月1日）



(資料：都市整備部都市計画課 平成8年5月31日東京都告示第682号による)

農地面積は、平成 14 年 1 月現在 188ha で市域の 11.9%にすぎず、そのうちの 81.9%が生産緑地に指定されています。

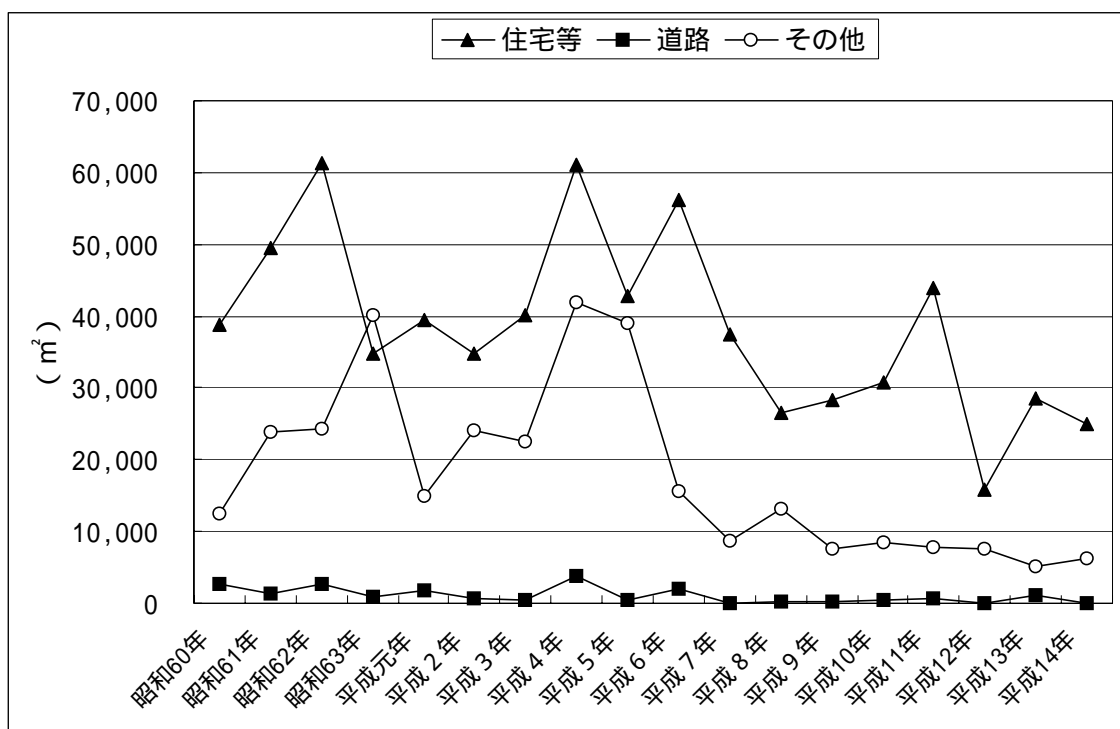
農地転用状況をみると、昭和 60 年から平成 14 年までの 18 年間に 103.7ha であり、年平均 5.8ha となっています。用途別の平均は、宅地 3.9ha、道路 0.1ha、その他 1.8ha、構成比では宅地 67.0%、道路 1.8%、その他 31.2%です。平成 7 年以降は、平成 11 年の宅地と平成 13 年の道路を除いて、各用途の農地転用面積は昭和 60 年から平成 14 年の年平均値を下回っており、農地転用面積が減少してきています。

農地面積：平成 14 年 1 月

区分	面積:ha	構成比:%
市街化区域	1585	100.0%
うち農地	188	11.9%
うち生産緑地	154	9.7%
農地に占める生産緑地の割合		81.9%

(資料：北多摩の農業統計 平成 15 年 3 月)

農地転用の推移



(資料：農業委員会)